

2010年度大学共同利用機関法人情報・システム研究機構
国立遺伝学研究所 共同研究・研究会募集要項

1. 募集内容

(1) 共同研究

「共同研究」とは、国立遺伝学研究所外の研究者からの申込みに基づき、国立遺伝学研究所内外の研究者数名により、特定の研究課題について共同して行う研究で、次の2種類に分けて募集を行います。

研究期間は、2010年4月1日から2011年3月31日までとします。

なお、継続については、原則として3年までとします。

① 共同研究（A）

- ・申請に基づき、共同研究を実施するための旅費を支給します。
- ・共同研究は、国立遺伝学研究所において実施することとなりますので、支給する旅費については、国立遺伝学研究所外の共同研究者が国立遺伝学研究所を訪問するためのものであることが原則となります。
- ・1件当たりの申請額は、原則として300千円を上限とします。なお、研究計画立案上、やむを得ず上限額を超えて申請しなければならない場合には、理由を付していただくこととなります。

② 共同研究（B）

- ・申請に基づき、共同研究を実施するための旅費及び研究費（原則として本研究所内で使用する消耗品が対象）を支給します。
- ・代表者又は申込書に記載の国立遺伝学研究所外の共同研究者が年間14日以上国立遺伝学研究所に滞在し、国立遺伝学研究所の施設・設備を利用して研究を行うものとします。
- ・共同研究は、国立遺伝学研究所において実施することとなりますので、支給する旅費については、国立遺伝学研究所外の共同研究者が国立遺伝学研究所を訪問するためのものであることが原則となります。
- ・1件当たりの申請額は、それぞれ(ア)旅費については原則として300千円、(イ)研究費については原則として1,000千円を上限とします。なお、研究計画立案上、やむを得ず上限額を超えて申請しなければならない場合には、理由を付していただくこととなります。
- ・採択件数は、共同研究（A）に比して限られたものとさせていただきます。（数件程度の採択を予定しております。）
- ・共同研究（B）としての採択とならなかったときで、共同研究（A）としての採択でも構わないと希望される場合は、共同研究（A）の審査の対象とすることも可能ですが、この場合、申込書にその旨明記していただく必要があります。

(2) 研究会

「研究会」とは、国立遺伝学研究所内外の研究者からの申込みに基づき、国立遺伝学研究所内外の比較的少人数で実施する研究集会で、当該研究集会の開催場所を訪問するための旅費を支給します。

研究期間は、2010年4月1日から2011年3月31日までとします。

- ・申請に基づき、研究会に参加するための旅費を支給します。
- ・研究会は、国立遺伝学研究所において実施することを原則としますので、支給する旅費については、国立遺伝学研究所外の研究者が国立遺伝学研究所を訪問するためのものであることが原則となります。
- ・1件当たりの申請額は、原則として500千円を上限とします。なお、計画立案上、やむを得ず上限額を超えて申請しなければならない場合には、理由を付していただくこととなります。

2. 募集内容の例外的な取扱い

今回の募集に当たっては、上記1.の内容を原則としていますが、次に掲げる場合にあっては、例外的な取扱いができることとします。

(1) 共同研究

共同研究は、国立遺伝学研究所において実施することを前提としていることから、支給する旅費については、原則として国立遺伝学研究所外の共同研究者が国立遺伝学研究所を訪問するためのものであることとしています。

しかしながら、共同研究を進める上で、(ア)国立遺伝学研究所に所属する者が出張しなければならない事由が生じた場合であって、(イ)その出張先が共同研究を実施中の共同研究者が所属する国立遺伝学研究所以外の研究機関、である場合に限定し、(旅費支給額の範囲内で) そのための旅費として使用することができることとします。

なお、この内容は、申込みの段階で申込書に明記いただく必要はありません。

(2) 研究会

研究会は、国立遺伝学研究所において実施することを原則としていることから、支給する旅費については、原則として国立遺伝学研究所外の研究者が国立遺伝学研究所を訪問するためのものであることとしています。

しかしながら、研究会の実施に当たり、国立遺伝学研究所以外の場所での研究会の開催がその主旨により相応しく波及効果も十分に予想され、かつ、国立遺伝学研究所研究会であることが明らかであると判断される場合に限り国立遺伝学研究所外での場所で開催することができます。この場合日本国内での開催に限ります。

(例) 会員数も多く、多くの研究者が集まる学会（分子生物学会等）での開催

この場合、国立遺伝学研究所外での開催の際、「国立遺伝学研究所研究会」と明示することを条件とします。

3. 申込者

【共同研究 (A)】

原則として国内の大学、大学共同利用機関、独立行政法人の研究機関等に所属する研究者とします。なお、必要な場合には国外の研究機関等に所属する研究者も申し込むことができます。

【共同研究 (B)】

原則として国内の大学、大学共同利用機関、独立行政法人の研究機関等に所属する研究者とします。

【研究会】

原則として国内の大学、大学共同利用機関、独立行政法人の研究機関等に所属する研究者とします。なお、必要な場合には国外の研究機関等に所属する研究者も申し込むことができます。

4. 申込方法

所定の申込書一部を所属機関の承認を得て提出してください。（監督権限を有する場合には、担当の部局長等の承認可。なお、国外の研究機関等に所属する研究者が申込む場合は、所属機関の承認は省略可。）

申込書は、<http://www.nig.ac.jp/welcome/kyoudoukenkyu/annai.html> からダウンロードすることができます。（英語版もこのアドレスから入手可能です。）

5. 申込書の提出先及び提出期限

〒411-8540 三島市谷田 1 1 1 1 番地

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所
管理部研究推進課研究推進チーム

電話 055 (981) 6728 (ダイヤル)

E-mail kyodo-mail@lab.nig.ac.jp

提出期限：2010年1月5日（火）必着

（封筒の表に「共同研究申込書在中」と朱書してください。）

6. 採否

研究所の審査を経て決定し申込者に通知するとともに、当研究所ホームページに採択一覧を掲載いたしますので、ご確認くださるようお願いいたします。

7. 所要経費

予算の範囲内で国立遺伝学研究所が負担します。旅費等の支払いは、情報・システム研究機構関連規程に基づき行うこととなります。

8. 研究報告書等

「共同研究」又は「研究会」のいずれについても、終了後30日以内に国立遺伝学研究所長に提出していただきます。

この報告書は国立遺伝学研究所の年報に掲載することがあります。

また、共同研究の成果を学会等において発表する場合には、当研究所共同研究に基づくものであることを次のように付記するとともに、論文の場合には当該論文の別冊1部を所長に提出していただきます。

和文の場合 国立遺伝学研究所共同研究（2009-A*あるいはB*）

英文の場合 NIG Cooperative Research Program（2009-A*あるいはB*）

（*採択一覧に掲載された整理番号を記入してください。）

9. その他

(1) 申込希望者は、申込書を提出する前に、あらかじめ国立遺伝学研究所の担当教員と次の事項について十分打ち合わせを行ってください。

(ア) 共同研究 研究課題、参加予定者、必要経費その他必要と認められる事項

(イ) 研究会 研究会の名称、研究目的、開催希望期日、参加予定者、必要経費その他必要と認められる事項

(2) 研究系、研究施設の担当教員及び研究の概要は別紙のとおりです。

電話はダイヤルイン方式になっていますので、055（981）に続けて担当教員の番号をダイヤルしてください。

(3) 共同研究及び研究会に必要な国立遺伝学研究所の施設・設備を利用することができます。

(4) 遺伝子組換え実験及び動物実験を行う場合は、採択後に所内研究代表者を通じて「遺伝子組換え実験計画書」及び「動物実験計画申請書」を提出していただきます。実施にあたっては、関係法令・指針等を遵守し、適切に実験を行っていただきますようお願いいたします。

(5) 本研究所でラジオアイソトープを使用される場合は、採択後、放射線業務従事者登録手続き等が必要となります。

(6) 共同研究又は研究会のため国立遺伝学研究所を訪問される際、所内の研究員宿泊施設を利用することができます。

(7) 本共同研究により得られた知的財産権の帰属等については、大学共同利用機関法人情報・システム研究機構職務発明等規程に基づき協議することになります。

(8) 公募により提供された個人情報は、課題審査を目的としてのみ利用いたします。また、採択課題については、当研究所のホームページ及び刊行物に共同研究代表者氏名及び所属並びに研究課題名等を掲載いたします。

(9) 当研究所の共同研究及び研究会のために出張される場合、当研究所からの出張依頼書

は、手続の簡素化を図るため原則として送付いたしませんのでご了承願います。
なお、出張依頼書が必要な場合は以下の担当までご連絡願います。

〒411-8540 三島市谷田1 1 1 1 番地

大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所

管理部研究推進課研究推進チーム

E-mail: kyodo-mail@lab.nig.ac.jp

電話: 055 (981) 6728(ダイヤルイン)

研究系・各研究施設の担当教員及び研究の概要

(2009年11月19日現在)

研究系等	研究部門名	担当教員名	内線	研究の概要
分子遺伝	分子遺伝	教授 深川 竜郎	6792	高等動物の染色体分配機構及び細胞分裂期におけるチェックポイント制御機構について、分子遺伝学、細胞生物学、生化学、構造生物学的手法を用いて研究を行っている。
		助教 堀 哲也	6744	
		助教 西野 達哉	6744	
分子遺伝	変異遺伝	教授 山尾 文明	6748	染色体の統合性保持や損傷修復などの制御機構をユビキチン系などのタンパク質の翻訳後修飾の面から分子生物学的に研究している。
		助教 筒井 康博	6747	
		助教 清野 浩明	6745	
細胞遺伝	細胞遺伝	教授 小林 武彦	6881	ゲノム（特に反復配列）の不安定性が細胞機能に与える影響について、遺伝学的、生化学的、情報学的手法により研究している。
		助教 飯田 哲史	6882	
		教授 荒木 弘之	6754	
助教 田中 誠司	6758			
個体遺伝	発生遺伝	教授 広海 健	6767	ショウジョウバエの神経系と生殖巣の発生遺伝学的研究を行っている。
		助教 浅岡 美穂	6811	
		助教 清水 裕	6768	
	形質遺伝	教授 岩里 琢治	6773	マウス体性感覚系を主要なモデルとして、条件的遺伝子ノックアウトなど多様な遺伝学的手法を用いて、哺乳類中枢神経回路の発達機構を研究している。神経回路発達におけるαキメラリンの機能の研究も行っている。
		助教 水野 秀信	6777	
初期発生	教授 川上 浩一	6740	ゼブラフィッシュをモデル生物として用いて、脊椎動物の発生、形態形成、行動の遺伝学的解析を行う。	
	助教 浅川 和秀	6739		
集団遺伝	集団遺伝	教授 斎藤 成也	6790	ヒトを中心として、遺伝子の進化を研究している。また遺伝子の進化を研究するための解析法を開発している。
		助教 隅山 健太	6787	
		准教授 高野 敏行	6781	
	助教 高橋 文	6782		
	進化遺伝	教授 明石 裕	6793	Population genetic methods are employed to study natural selection in genome evolution, especially global constraints related to biosynthesis.
	助教 長田直樹*		※1 / 1 着任予定	

総合遺伝	人類遺伝				
	育種遺伝	教授 角谷 徹仁 助教 佐瀬 英俊 助教 樽谷芳明* ※3/1着任予定	6801 6807	シロイヌナズナを用いて、エピジェネティックな遺伝子修飾の役割とその分子機構を研究している。	
		准教授 柴原 慶一 助教 西嶋 仁	5828 5830	遺伝子ノックアウトマウス個体及びヒト培養変異細胞株の解析など総合的なアプローチにより、核内高次構造体の実像、形成機構、未知機能を明らかにする。	
	脳機能	准教授 平田たつみ 助教 川崎 能彦	6721 6721	脊椎動物の神経発生、特に神経回路形成機構の研究	
系統生物 研究センター	哺乳動物 遺 伝	教授 城石 俊彦 助教 田村 勝 助教 高田 豊行	6818 6816 6820	マウス自然変異体や遺伝子改変マウスを用いて、形態形成やエネルギー代謝などの高次表現形質の遺伝制御メカニズムの統合的理解をめざした研究を行っている。	
		発生工学	教授 相賀裕美子 助教 小久保博樹 助教 森本 充* ※4/1着任予定	6829 6815	マウスの初期発生、形態形成に関与する分子の機能及びその発現制御機構を発生工学的手法、ノックアウトマウス作製や、トランスジェニックマウス法を用いて解析している。特に中胚葉性器官及び生殖細胞の形成に関わる研究を行っている。
		マウス開発	准教授 小出 剛	5843	野生由来マウス系統など各種のマウスリソースを用い、動物行動の多様性を行動パターンの解析により明らかにし、さらに遺伝的マッピング及び遺伝子操作等の手法を用いて、その遺伝的基盤を解析している。
	小型魚類 開 発	准教授 酒井 則良 助教 新屋みのり	5848 5849	ゼブラフィッシュの雄生殖細胞培養系を用いて、精子による遺伝子改変技術の確立と精子形成の分子機構の解析を行っている。また、初期胚由来の培養細胞を用いて初期発生過程の分子機構の解析も進めている。	
		植物遺伝	教授 倉田 のり 助教 久保 貴彦	6808 6802	イネを用いて生殖、胚発生過程の遺伝的プログラムの解析および生殖隔離のメカニズムの研究を行う。また、野生イネリソースを用いた進化と多様性研究を進める。
	原核生物 遺 伝	教授 仁木 宏典 助教 古谷 寛治	6870 6827	大腸菌と酵母を用いて、染色体の高次構造とその動態を探る。	
		無脊椎動物 遺 伝	教授 上田 龍	6823	誘導型 <i>RNAi</i> 法を利用してショウジョウバエ 7,000 遺伝子の変異体系統を作成した。これら変異体に対する遺伝学的解析から各遺伝子の生体機能、さらに遺伝子相互の関係性を明らかにすることを目標に研究を行っている。

生物遺伝 資源情報 総合センター	系統情報	准教授 山崎由紀子	6885	生命科学における知識情報の記述法に関する研究を行っている他、遺伝資源情報のデータベース構築を研究事業として推進している。
	生物遺伝 資源情報	教授 小原 雄治	6854	「ゲノムから個体はどうやってできるか？」この仕組みの解明のために線虫 <i>C.elegans</i> の細胞系譜・時期特異的遺伝子群の同定と制御ネットワークの研究を進めている。
		助教 安達 佳樹	6860	
比較ゲノム 解析	教授 藤山秋佐夫 特任准教授 豊田 敦	6788	平成 20 年 3 月に発足した当研究室では、生物系統の進化やヒトの遺伝情報構造など、生命システムを構成するゲノム基盤の理解をめざし、新世代シーケンサ等のゲノム解読技術を駆使した比較ゲノム研究を行う。	
		6788		
構造遺伝 学研究 センター	生体高分子	教授 前島 一博	6864	平成 21 年 4 月に発足した本研究室では、細胞内のゲノム DNA の折り畳み構造とそのダイナミクスについて、細胞生物学、物理、化学など幅広い手法を用いて研究を進めている。
	超分子機能			
	構造制御			
	超分子構造	准教授 白木原康雄 助教 伊藤 啓	6887	遺伝学、構造生物学における様々な機構を分子レベルで解析するために、蛋白質、核酸などの生体高分子やその集合体(超分子)の立体構造を決定する。X 線結晶解析をそのために用いる。
			6862	
	遺伝子回路	准教授 鈴木えみ子 助教 来栖 光彦	6812	ショウジョウバエの分子遺伝学と電子顕微鏡等の高分解能顕微鏡法を組み合わせることにより、細胞内構造と機能との関係を研究している。特に神経回路形成に着目して研究している。
6813				
生命情報・ DDBJ 研究センター	遺伝情報 分析	教授 五條堀 孝	6847	ゲノム構造や遺伝子発現パターンからみた生物の進化過程の解明、特に脳や神経系および眼に注目した分子進化の研究や、ウイルスの分子進化、正の淘汰の研究、生命情報に関するデータベース構築やソフトウェアの研究開発
		准教授 池尾 一穂	6851	
		助教 鈴木 善幸	6852	
		助教 福地佐斗志	6837	
	遺伝子機能			
	大量遺伝 情報	教授 中村 保一 助教 神沼 英里	6859	DDBJ 国際塩基配列データベースを中心とした、ライフサイエンス・データベースの統合化研究、および、ゲノム配列の注釈付け (アノテーション) 研究。
3308				
データベース 運用開発	教授 高木 利久	5821		
遺伝子発現 解析	教授 大久保公策 助教 小笠原 理	5838	遺伝子発現データの統合 遺伝子発現データ解析およびデータベースの構築、データ解析手法に関するデータベースの構築、および遺伝子発現の進化モデルの構築	
		5836		

新分野創 造センター	神経形態	准教授 榎本 和生	5860	ショウジョウバエ末梢神経系をモデルとして、個々のニューロンに特徴的な神経突起形態を規定する分子基盤の同定を行う。特に、樹状突起の形態・維持・可塑的变化に着目し、ダウン症等の精神疾患との関連を視野に入れて解析を進めている。
	細胞建築	准教授 木村 暁	5854	線虫 <i>C.elegans</i> 胚における核と染色体の細胞内動態・小器官の流動現象・細胞質分裂を主な対象として、定量計測やコンピュータ・シミュレーションを駆使した「細胞建築学」の発展を目指している
実験圃場		准教授 野々村賢一 助 教 宮崎さおり	6872 6874	イネの種子不稔突然変異体の解析を通じて、植物生殖細胞の初期発生過程および染色体動態を制御する遺伝子群の解明を目指す。

研究系等	研究部門名	担当教員名	内線	研究の概要
客員部門	核酸化学	教授 夏目 徹	6748	超高感度・ハイスループットな独自の質量分析システムを構築し、大規模なタンパク質相互作用ネットワーク解析を行っている。
		教授 岩井 一宏	6748	タンパク質の機能発現には翻訳後修飾や補欠分子族と結合などが必要であり、その中でユビキチン修飾と鉄に焦点を絞り研究を進めている。
	細胞質遺伝	教授 BALLING, Rudi	6818	マウスによるヒト疾患のモデリングを研究している。
		教授 黒田 真也	6845	シグナル伝達経路のシステム生物学を行っている。特に時間情報コードの観点から、なぜ同じ種類の刺激であっても異なる現象を導くことができるかを解析している。
	生理遺伝	教授 PATEL, Nipam H.	6767	胚発生におけるパターン形成の遺伝的・進化的解析について研究をしている。
		教授 KIMBLE, Judith E.	6740	生殖幹細胞とそのニッチの制御
	理論遺伝	教授 HARTL, Daniel L.	6790	生物進化と新種出現に関するプロセスについて研究をしている。
		教授 長谷川政美	6847	分子系統樹推定法の開発と生物系統学への応用を行う。具体的には哺乳類の系統進化の問題などを扱う。
	応用遺伝	教授 COLOT, Vincent	6795	シロイヌナズナのエピジェネティクスとエピゲノミクスを研究している。
		教授 門脇 孝	6854	糖代謝調節とその破綻としての糖尿病の分子機構の解明を目ざして、発生工学的手法や分子遺伝学手法を用いた個体、細胞、分子レベルの統合的機能解析を行っている。